

# 平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

## 広島市立古田中学校

### 1 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語，算数・数学）

##### 主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

##### 主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

##### 児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

##### 学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 2 各教科の平均正答率

国語						数学					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
75.1	76.0	77.0	65.3	65.7	65.6	64.6	64.9	69.6	43.3	43.3	46.1

### 3 各教科領域別の定着状況

#### 【 国語A 】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	74.2	74.0	72.7
書くこと	71.1	73.6	73.4
読むこと	76.6	77.0	80.0
言語事項	75.8	76.7	77.6

#### 【 国語B 】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	45.6	47.7	43.9
書くこと	60.2	61.0	62.2
読むこと	67.5	67.7	68.1
言語事項	—	—	

#### 【 数学A 】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	75.2	75.5	79.7
図形	64.3	64.7	70.0
数量関係	54.3	54.4	59.0

#### 【 数学B 】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と式	43.2	43.6	48.2
図形	40.2	40.7	44.9
数量関係	45.5	44.9	45.5

## 4 課題と今後の取り組み

### (1) 生活・学習習慣に関して

改善したい点	今後の取り組み
<p>○「携帯電話やメールをしている」や「インターネットをする時間が多い」など、情報機器の取り扱いに関する項目について、概ね県や全国と比べて数値が高い。</p> <p>○「総合的な学習が好き」な生徒の割合が、全国平均と比べて少ない。</p>	<p>○「基本的に、携帯は校内には持ち込まない」という、従来の本校の方針を維持し、教科（技術家庭科等）や道徳・学活を中心にしながら、生徒指導全般を通して指導を充実させたい。特に、加害者・被害者の双方の実例を具体的に挙げながら、トラブルを回避する行動に導いていきたい。</p> <p>○これまでの「自己実現」「進路選択」を中心としたものに、後期よりのESDの取組を加えた「総合的な学習」の中で、思考・判断・表現力を培いながら、「他者との関わり」を取り入れた学習活動を充実させていくことによって、この学習の「楽しさ」や「達成感」を実感させたい。</p>

### (2) 教科の学力実態に関して

	生徒の学習状況・指導に関する課題	今後の取り組み
国語	<p>○言語事項について、基礎的な力が弱い生徒も少なくなく、学力格差につながっている。</p> <p>○「話し手の意図を考えながら内容を聞き取る」ことが十分にはできない。</p> <p>○「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力が不足している。</p> <p>○「話す・聞く・書く」分野の活用力が不十分である。特に「分かりやすい文章を書く」・「表現の仕方に注意して説得力のある話をする」ことを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>○授業だけではなく、家庭学習にも意欲的に取り組んでいく姿勢・習慣を身につけさせるため、適切な家庭学習の課題を提示する。困難な生徒には補充学習も設定し、やりきらせることで自信と力をつけたい。</p> <p>○国語の授業のみならず、学校生活の全ての指導場面で「考えつつ、聞き取る」ことを要求し、繰り返し鍛えていく。</p> <p>○授業での短文作成の練習に少しずつでも取り組みたい。</p> <p>○「言数」の授業も含めて、自分の考えをしっかり練り、文章として「書く」時間を確保し、さらに小グループでの学習も活用することで、「適切な語句を使い、表現法を工夫して、聞き手に分かりやすい文章を組み立てる」力をつけたい。</p>
数学	<p>○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」力が弱い。</p> <p>○「空間図形」・「一次関数」の問題について、定着率が低い。</p>	<p>○「導入」や「活用」の段階で、必ず「日常生活の中の数学的事象」を取り上げることとする。</p> <p>○個人で考える時間と、グループで交流し、考え合う時間を十分に確保し、問題解決学習に取り組ませる中で、数学的に考え、説明する力を育てていきたい。</p> <p>○授業内での「基礎確認」「復習」の小テストの取組を充実させたい。</p>